

「居場所」探す中学生へ

社会福祉法人あさがお福祉会(徳島市大原町外籠)は、自習の場や居場所が必要な地域の中学生を対象に、4月から本部のミーティングスペースを開放する。同会で昨年夏からインターンを始めた徳島大生が学習などのサポートに入る。新型コロナウイルスの影響による不況の深刻化や家庭環境の多様化が進む中、地域全体で子どもを育むことを目指す。

あさがお福祉会(徳島市)

本部1階の8人掛けのテーブル、ソファなどがそろそろ、労する親を見てきたのが参加ペースを毎週火、木曜の午後5時から8時まで開放する。土曜は月2回程度、午後2時から5時までゲームやコンピュータでも遊べるようにする。初回利用時に保護者の同意書が必要で、平日、土曜にも利用は無料。授業の一環で昨年7月から、徳島大理工学部2年の中田愛乃さん(20)と1年の杉山奏太郎さん(19)、生物資源産業学部2年の高橋晴斗さん(20)の3人が、介護や保育などの福祉事業を行う同会でインターンを体験してきた。い

本部開放し自習室に「地域で子を育む仕組みを」



中学生の居場所づくりに向け、議論を重ねてきた学生(右の2人)と保岡施設長ら。このスペースを自習室として開放する一徳島市大原町外籠のあさがお福祉会本部

実施。93%が学校や家庭以外の居場所を求めていることが分かった。保岡施設長は「子どもが少くない時代なので、一人一人を支援策を検討した結果、ひ地域で大切に育む必要がある」とり親家庭の子どもに限らる。こうした居場所の提供がず、地域の中学生に居場所を全国の社会福祉法人に広がってほしい」と話した。中田さんは「福祉の現状と課題が分かった。中学生とは丁寧にコミュニケーションを取って07」。

(木下真寿美)

最優秀4作品を表

「セーフティラリー」交通安全部



交通事故の防止をテーマとした動画やアイデアを募る「徳島スマートドライバースーフティラリー2020」(同実行委主催)の交通安全企画部門で、最優秀賞の4作品が決まった。58作品の応募があった動画の部は、城南高校(徳島市)の「自分を守るために」、徳島穴吹カレッジ(同市)の「ようせいさんと交通安全を学ぼう!」、上田麻美さん(38)飲食店従業員、板野町「の「あかんーえらいこっちゃ連」の3作品が、人気投票などで最優秀賞に選ばれた。アイデアの部では、人工知能(AI)を故減少を図る取案した阿南高専が最優秀賞になった。波多野(阿波市)が多数の応募校賞を受賞した。12日に県警本部があり、各表彰状を受け取り品は実行委のホで見ることができ動画でヘルメッ大切な訴えた宮内麻希さん(17)は、事故に遭う可能性自分事として捉いと話している